



天文台だより

銀河の森天文台
2023 冬号
Vol. 98

11月8日夜、皆既月食&天王星食を観測！



2022年11月8日(火)の夜、皆既月食が起き、日本全国で観測されました。陸別では、皆既中はおおむね晴れて、暗く赤く見える月をたくさんの来館者が楽しんでいました。

月食は、太陽-地球-月が直線上に並び、地球の影に月が隠れる現象です。月全体が隠れる(食分1.0以上になると「皆既月食」となります。今回は食分最大が1.36となり、皆既が1時間以上も続きました。左の写真は食分が最大の時(19:59撮影)と皆既前後の月食の画像を合成したものです。明るい部分が地球の影に入っていない部分で影の際です。暗い部分に注目すると大きな地球の影が浮かび上がって見えます。

陸別では皆既月食が終わった後に月が天王星を隠す現象「天王星食」が起き、観測に成功しました(写真下)。

次回日本全国で見ることができる皆既月食は、2025年9月8日(月)未明に起きます。

写真上: 皆既月食で浮かぶ地球の影
写真下: 天王星食で「月に潜入する天王星」(20:53頃)と「月から出現する天王星」(21:49頃)

冬のイベント情報 !!

☆火星と冬の天体観望会

火星がおうし座の中で見頃を迎えています。望遠鏡では、火星やこの時期見られる冬の天体をご案内します。

開催日: 2月1日(水)~12日(日)

説明会: 午後7時30分から(土曜・日曜のみ)

☆2022年度銀河の森天文台写真展

銀河の森天文台で撮影した最近1年の写真を展示します。合わせて、皆様が最近1年で撮影された天体写真を公募し展示します。詳しい応募方法は天文台HPをご覧ください。

募集期間: 2023年1月6日(金)~2月28日(火)

展示期間: 2023年3月10日(金)~26日(日)

海王星衛星トリトンによる恒星食の観測に成功！

2022年10月6日深夜、海王星の衛星トリトンがみずがめ座の恒星(11.6等)を隠す、恒星食の観測にアメリカのローウェル天文台の研究者、アマンダ・ボッシュ博士とステイーブン・レビン博士が成功しました。

観測は、当館の大型望遠鏡「りくり」にアメリカから持参した高感度カメラを取り付けて行われました。食に差しかかる直前から薄雲が流れてきて、パソコンの画面上では観測できたかわかりませんでした。翌朝、データ解析の結果、観測成功とのうれしいメールが届きました。詳細は、当館HPをご覧ください。



野尻町長(右)を表敬訪問したボッシュ博士(左)とレビン博士(中)

暦表 (陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
1月 1日	6:54	16:03	8.7	12:05	1:17
1月 15日	6:51	16:18	22.7	---	10:51
2月 1日	6:38	16:39	10.3	12:08	3:37
2月 15日	6:21	16:58	24.3	1:54	10:48
3月 1日	5:59	17:16	8.8	10:48	2:30
3月 15日	5:35	17:34	22.8	0:56	9:31

裏面もあります

天文行事&暦

1月

- 12/26-1/3 天文台休館日
- 4 しぶんぎ座流星群が極大
(PM1時 最大30個/時)
- 6 小寒(24節気:太陽黄経285°)
- 7 ○満月
- 20 大寒(24節気:太陽黄経300°)
- 22 ●新月
- 30 水星が西方最大離角
(光度:-0.1等, 離角:24.9°)

2月

- 1-12 火星と冬の天体観望会
- 4 立春(24節気:太陽黄経315°)
- 6 ○満月
- 19 雨水(24節気:太陽黄経330°)
- 20 ●新月

3月

- 6 啓蟄(24節気:太陽黄経345°)
- 7 ○満月
- 10-26 2022年度銀河の森天文台写真展
- 21 春分(24節気:太陽黄経0°)
- 22 ●新月

2023年太陽系天体みどころカレンダー

★黒線期間が見頃の時期、点線期間は短時間ですが見える時期になります
○:満月 ●:新月

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
太陽	○7 ●22	○6 ●20	○7 ●22	○6 ●20	○6 ●20	○4 ●18	○3 ●18	○2.3 ●16	○29 ●15	○29 ●15	○27 ●13	○27 ●13
水星												
金星												
火星												
木星												
土星												
天王星												
海王星												

2023年の天文台開館時間中に太陽系の天体たちが見頃となる時期をカレンダーにまとめました。

今年の中秋の名月は9月29日で、満月と同じ日です。また、開館時間外ですが、10月29日の早朝には部分月食が見られます。

昨年から見頃が続いている3つの惑星の内、まず天王星の見頃が3月で一旦終わり、11月から再び見頃となります。赤く輝く火星は5月までが見頃です。金星は東方最大離角を迎える6月がいちばん観察しやすい時期です。短い見頃が2回訪れる水星は、開館直後から日没頃までが観察できるチャンスです。他の惑星は秋以降が見頃で、環が印象的な土星が8月から、海王星は9月から見頃を迎えます。そして11月からは縞模様特徴的な木星が見頃となります。

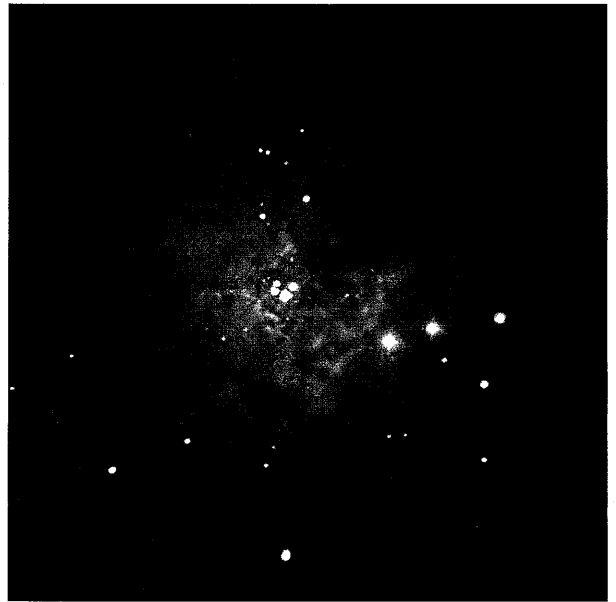
望遠鏡で、肉眼で、今年もたくさん空を見上げましょう。みなさまのご来館をお待ちしています！

天文台からのお知らせ

☆ 12月26日(月)~1月3日(火)の期間は、天文台休館日となります。

ペッコカめぐり「スマホでオリオン大星雲」

最近のスマートフォンのカメラの性能は素晴らしく、天の川を写す事の出来るものも増えてきました。とはいえ、星雲や星団は明るさが足りなく、写すのは難しいのではと考えていましたが、試しにM42オリオン大星雲を写してみると、想像以上に良く写ってくれてびっくりしました。他の天体も写してみました。オリオン大星雲は元々比較的明るい天体であることもあって、その写りは格別でした。皆さんもぜひ望遠鏡とスマートフォンでオリオン大星雲を撮影してみませんか？撮影する際には望遠鏡をひとり占めしてしまうため、他の方が後ろに並んでいないときをお願い致します。(中)



プラネタリウム上映中止のお知らせ

コロナ感染拡大防止のため、コロナ終息までプラネタリウム上映を中止させていただきます。安心安全を最優先に考えての決定に何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

発行・編集：りくべつ宇宙地球科学館（銀河の森天文台）
〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100
URL : <https://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>
E-mail : ginga@rikubetsu.jp Twitter : @ginganomori_obs



裏面もあります